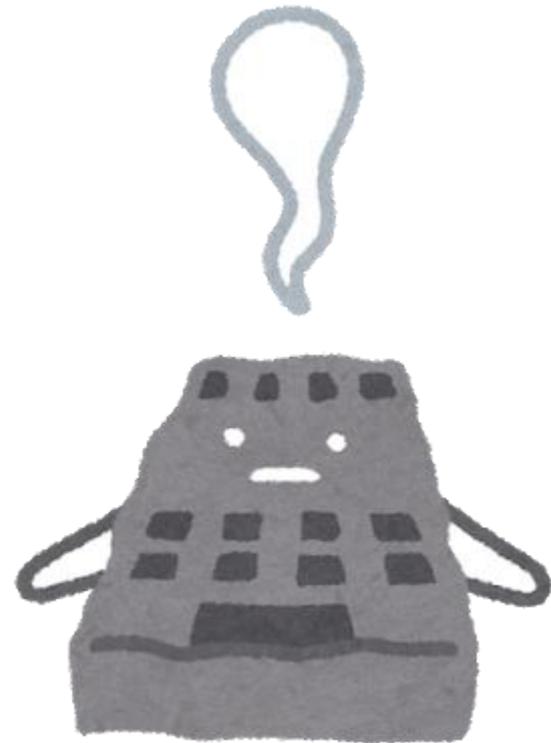


中国で起きた

工場移転により起きた労働争議が発端となり

事業撤退になった話し



2016年7月上旬：

広東省・某市にある製造会社が、従業員に対し、8月に現住所から2キロ離れた場所へ工場を移転することを通知した。



2キロ



一部従業員は移転に反対し、生産活動を停止するといったボイコットを開始した。地方政府にも介入してもらい、この争議を円滑に解決するよう取り計らったが、結局合意には至らなかった。

同年8月下旬：

製造会社の責任者は、

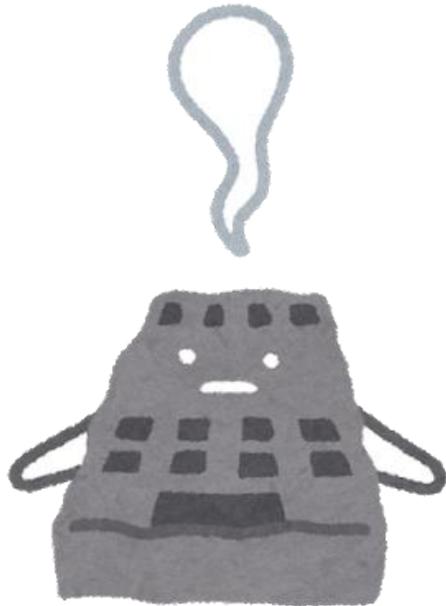
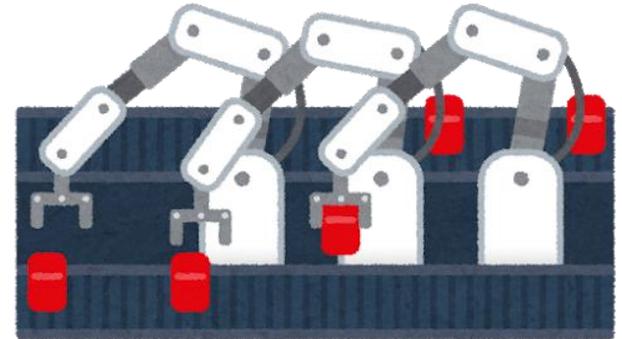
- ・市、区、鎮の労働組合、
- ・社会保険機関 安定維持部門

と解決策について協議を行い、最終的に会社から労働者に対して適切な補助金を支給し、そして協議を行った上で労働契約の解除を交渉するとの結論に至った。



会社はこの時点において、通常の生産活動を行うことができなかつたため、取引先からの信頼が失われ、発注のキャンセルも相次ぎ、深刻な損害を受けていた。

同年9月某日：
製造会社は騒動を起こしたすべての従業員を正式に解雇、その翌日に新住所へ工場を移転し、生産活動を再開した。



しかし、新しい労働者を募集しても、会社の評判が悪く、応募してくる労働者がほとんどおらず、また取引先からも信頼を失っていたため、発注数が大幅に減少し、最終的に2017年に生産事業を撤退することになった。